

# ほとけの 混和会だより

平成二十九年十二月

東 光 院

仏の混和会

第130号



## 十二月八日は 釈尊お悟りの日

十二月八日は、お釈迦様が  
お悟りに成られた日です。

そこで今回は、お釈迦様は何を  
悟られたのか、ほんの少しだけ探  
つてみたいと存じます。

お釈迦様は、釈迦国の王子と  
して何不自由無く快樂の極みの  
中で過ごして居られました。  
しかし国の人々は様々な苦しみ  
もがき嘆いて居られたのでした。

そこで王子様は、「この苦し  
みや迷いから人々を救うにはどう  
したら良いのか」、そして「私達  
なんの為に生きているのか」など  
と、城内にて自問自答の日々を  
過ごすのですが、釈尊の迷いは晴  
れることはありませんでした。

とうとう王子二十九歳の時、  
王位継承の地位を捨てて出家さ  
れ、修行者の中に身を投じてしま

われたのでした。

そして木の根や食物の葉を食べ  
ながら六年間の難行苦行の日々  
を重ね、己を死の寸前まで追いつ  
めて行きます。

しかし、苦行だけでは真理  
は得られないと気づき六年間  
も続けた苦行を止め、苦行の  
山のふもとに住む村の娘スジ  
ヤータの乳粥の供養を受けて  
体力を回復されると、今度は  
穏やかな静かな気持ちで瞑想  
に入られ十二月八日の早朝、  
明けの明星に導かれ真理に目  
覚められたのであります。

そのお悟りは大自然の真理  
の元に、快樂の極みを生きる  
のでは無く、又苦行の極みを  
生きるでも無く、己の思い込  
みに縛られる事も、己と言う  
「自我」とらわれることも無く

「あるがままに」  
「ゆつたりと」

「風の吹くままに」  
万人の幸を願う、大いなる  
慈愛心を抱き、脈々と継承さ  
れる永遠の生命を感得された  
のでした。

少しでも釈尊の御心に近づ  
けられるように努めて参りた  
いと存じます。

合掌

## 人は、何の為に 生きているのか

NO.8



ねーねーお坊さん、  
最近、目をそむけた  
く成るような悲惨  
な事件が多いね。  
何とかならないの。



そうじゃな  
アパートの一室で  
若い男女九人も  
殺めたと言うのじゃから  
ニュースを見るのも辛かったよ。

このニュースが報道されると、  
つい目をそむけ、他人事のように  
にチャンネルを変えていたのじゃ。  
そんなある日、亡くなられた  
人が、私に何かを訴えているよ  
うに感じられたのじゃよ。

「助けて下さい。みんな辛い  
です。早く私達に生きる指針  
を示して下さい。」などと、  
自らの命を持って、私に叫んで  
いるように思えたのじゃよ。

「そうだ、私はこの事実を目を  
そむけては成らない、被害者の  
思い、又加害者の思い、みんな  
しつかりと受け止めなければ成  
らない」と、あえてニュースを見  
るようになったのじゃよ。

すると事件の容疑者は風俗  
業のスカウトマンとして働いて  
いたらしいのじゃが、募集の仕方  
は路上で声をかけるのでは無く  
ネットで募集をかけ、女性を風

俗店に送り込んでいたというの  
じゃ。しかしこの人は「生きてい  
ても意味がない、何のために生  
きているのか分からない」などと  
生きる事の意義が見いだせず苦  
しんでいた事が解つたのじゃよ。  
同じように、殺害された女性  
はツイッターで「一緒に死んでく  
れる人を探している」などと  
投稿していたと言う事じゃが、  
やはり生きる事の意義を見いだ  
す事が出来ず、寂しさから逃れ  
るように己自身と同じような自  
殺願望を抱いて居て共に理解し  
会える友人をネット上でさがし  
求めて居た事が解つたのじゃよ。

みんな、この孤独社会の被害  
者のように思われるのじゃよ。  
今、共有し会える生きがいと、  
生きる喜びを分かち合い、温も  
りの感じ会える環境を築く事は  
急務に思われるのじゃよ。

そこで今、私は何をしなければ  
成らないのか、何が出来るの  
か色々と思いを巡らした結果、  
共に信じ合える環境の構築の元  
に「楽しみの共有」と言う事を

課題にしようと思つて居るのじ  
ゃよ。何をするにも偽善者とな  
らないように共に楽しんで行こ  
うね。

大馬亮観拝

去る十月の頭から数日間、比叡山延暦寺「釈迦堂」にて行われております「釈迦堂内陣特別拝観」並びに「秘仏本尊釈迦如来像ご開帳」の手伝いに行っていました。今回はその時の様子などを『出張編』と題してお伝えします。

## 日本の仏様



今回私は、根本中堂から少し離れたところに有ります「西塔」と言う場所の「釈迦堂」と呼ばれるお堂でお世話になりました。

この釈迦堂、正式名称は「転法輪堂」という名前なのですが、お釈迦様をお祀りされていることから「釈迦堂」と呼ばれております。実はこのお釈迦様、天台宗を開かれた最澄様が自ら彫られたと言ひ伝えられております。また、釈迦堂は建立から四百二十二年と経つ比叡山の中でも最も古いお堂です。

堂内に四天王像と梵天、帝釈天の大きな立像に護られながら四つの小さなお社が祀られており、お社には伊勢神宮の神様など全国各地の神社の神様や、比叡山をお守りされている山の神様の像がお祀りされておりました。これは神仏集合と言ひ、神も



仏も平等に大切にお祀りする歴史有るお祀り方法です。

私が釈迦堂へ行った時はご開帳が始まって直ぐの時期だったので、連日大雨でもとも寒く、前が見えないほどの霧が山を覆う日が続いたのですが、休日になると晴天となり、さらに丁度ご開帳が始まって初めての休日、しかも三連休と言うことも有り、参拝に来られた方々が長蛇の列となって押しかけ、御山の方もこの様な事態は想定していなかったようで、「こんなに人が釈迦堂に来たのは建立以来初めてなんじゃ無いか」とつぶやくほど多くの方々が来られました。後日その日の来場者数をお聞きしましたら、なんと一日に二千人以上の方がお参りに来られたとの事で驚きです。数日間と限られた時間でしたが予想外の出来事も多く、今後二度と無いようなとても貴重な体験をさせて頂くことが出来かと思ひます。次に秘仏のお釈迦様にお会いできるのは何年後かな...

### ↑ 比叡山釈迦堂 秘仏釈迦如来 ↓



(ご開帳は十二月十日まで) 亮澄拝

## 終そわばりのま収し獲たが



深大寺はそばが有名ですが、東光院でも名物となつている、ほとけのおそば今年も無事に収穫が行われました。ポジョレヌー(ワイン)では「十年に一度の当たり年」「今世紀最高の出来栄え」などのキャッチコピーが世間を賑わせますが、今年の東光院のおそばは「例年の四分の一の収量」とのこと、昨年の「近年希に見る大不作」で収量がゼロに等しかったことから比べれば、良しとしなければいけないのかもしれない。

とはいえ、今年はいただいた堆肥などの影響もあつて、成長自体は大変旺盛で花期の段階では「近年希に見る大豊作」を見込んでおりました。しかし、雨天による刈り入



れの延期や収穫期に続いた台風により、重く詰まった種はほとんど畑に落とされてしまい、前述する結果となつてしまったこと残念でありません。また収穫脱穀に際し、ご協力いただいた皆様には改めて感謝申し上げます。



## 七五三の季節に

深大寺では今年も七五三の季節を迎えました。御祈願の意味が理解できず怖がる子もいらつしやいます。着物姿でお子様と写真を撮るご家族の方が多く、大人になつてから大切な思い出になるのではないのでしょうか。 亮敬拝

### 五十回忌法要

去る十一月六日、泉倉寺住職導師の元、住職聖母の五十回忌法要が行われました。大変厳しい時代に於いても力強く子供六人を育て上げてくれた。みんなで感謝の意を捧げようとの事でした。